



佐藤クリスタル

# 国際交流員コーナー

## CIR's Corner

2024年8月 - 第27号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

### 今月のテーマ：グレシャム市からの留学生たち①

6月下旬から7月にかけて、姉妹都市である米国オレゴン州グレシャム市から、留学生たちがたくさん来ました。今回は、マウントフッド・コミュニティカレッジからの留学生について紹介します。



マウントフッド・コミュニティカレッジ(MHCC)はグレシャム市にある2年制大学です。「コミュニティカレッジ」というのは、「ジュニアカレッジ」と呼ばれることもあり、日本の短期大学に似ています。コミュニティカレッジの学生は、職業に必要な専門的な技術を学んだり、4年制大学に編入するための基礎的な科目を受講したりします。コミュニティカレッジの特徴は、4年制大学と違い、社会人が多いです。多くの学生は何年か仕事をしてから、入学します。そして、4年制大学と比べて、授業料が安いのです。つまり、高校卒業後にすぐ4年制大学に入学することより、コミュニティカレッジを卒業してから4年制大学に編入した方がお得ということです。

ちなみに、私の出身地、ワシントン州は、「ランニング・スタート」というプログラムがあります。コミュニティカレッジの入試を合格した16歳以上の高校生

を対象に、2年制大学と高校を同時に通い、大学レベルの授業を取ることができる無料のプログラムです。私はこのプログラムの参加者として、シアトルにある「シアトル・セントラル・コミュニティカレッジ」に2年間通いました。16歳からアラフォーまでのクラスメイトがいた、とてもユニークな高校生活でした。高校とコミュニティカレッジを同時に卒業し、そのあとワシントン大学に入学しましたが、このプログラムのおかげですでに2年間分の単位を修得していたため、飛び級することができました。しかし、今日はグレシャムの話なので、それについてはまた今度紹介します。

話が戻りますが、MHCCで日本語を勉強中の学生11人と日本語の先生1人が、6月24日から7月7日まで江別に滞在しました。学生たちは、市内の家庭にホームステイをしながら、札幌学院大学(SGU)で授業体験や国際交流をしていました。

6月24日にSGUで開催した歓迎会に参加しました。学生たちは時差ボケにもかかわらず、明るくて元気いっぱいでした。最初は、皆の前で日本語で自己紹介をしたとき、少し緊張しているように見えたのですが、SGUの学生たちとホストファミリーとの交流タイムに積極的に参加していました。

6月27日に、MHCCの学生たちと1日過ごしました。最初に、外国語指導助手(ALT)の授業に参加しました。東野幌小学校のカービィ先生は、「江別とグレシャムの好きなところを紹介しよう！」という楽しいインタビューゲームを考えました。生徒たちはMHCCの学生たちに蔦屋書店やアースドリーム角

山農場などの好きな場所について教え、それからグレシャム市の好きな場所を尋ねました。MHCCの学生たちは生徒たちにグレシャム市にあるメイン・シティ・パークやホーガンビュート自然公園などについて教え、生徒たちはその情報を書き留めました。最後に、全員でビンゴをし、グレシャム市やアメリカについての質問タイムもしました。授業の後に、何人かの学生が「いつかALTになってみたい」と言っていました。



授業の後、郷土資料館に行きました。江別太遺跡から発掘された土器や開拓に関する道具などの江別の歴史的な物を興味津々に見学していました。屯田兵の日本刀を見て、テンションが上がりました。館長が「屯田兵は元侍だったよ」と説明をすると、学生たちは「すごい！カッコいい！」と言いました。やはり外国人は日本刀や侍に憧れていると改めて思いました。

ランチタイムは自由行動でした。学生たちは私が作成した江別市役所周辺にあるレストランのリストを参考にし、それぞれ好きなものを食べました。ラーメンにした学生もいましたし、焼き肉にした学生もいましたし、あえてマクドナルドにした学生もいました。「アメリカのマックと比較したかった」と説明しました。私は学生2人とお蕎麦を食べに行きました。3人とも「天ざるそば」にしました。学生たちはお蕎麦を食べるのが初めてだったので、食べ方を教えました。「とても美味しい！」と言っていました。

昼食を食べ終わった後、江別市長を表敬訪問しました。学生一人一人が日本語で自己紹介をし、江別市で食べてみたいもの、してみたいこと、将来の夢などについて語りました。市長はグレシャムでの経験や激励の言葉を送り、学生たちに刺激を与えました。「緊張したけど、市長は優しくかった」と言っていました。とても愉快的な時間を過ごしました。



最後に、EBRIにお土産を買いに行きました。「随分おしゃれな場所だね！」と学生たちが喜びました。お菓子やスイーツが大人気でした。かわいいTシャツや風呂敷を買った学生もいました。そして、コーヒーを飲み、唐揚げを食べながら休憩している学生たちもいました。「小腹が空いたので…」と言っていました。買い物が終わったら、学生たちはそれぞれホストファミリーの家やSGUに戻りました。とても充実した1日でした。

7月5日にSGUで開催した送別会にも参加しました。今回は前より参加者が多く、とても賑やかなパーティーでした。そして、学生たちは前よりリラックスしていて、少し成長したように見えました。SGUの先生が用意したスライドショーで約2週間の写真を振り返り、MHCCの学生にとっても、ホストファミリーやSGUの学生にとっても、非常に有意義な姉妹都市交流になったと思えました。そして、私も大学の時に日本に留学したことがあるので、MHCCの学生と過ごしたことを通じて、昔の自分を思い出し、懐かしく思いました。江別市で経験したことはきっと皆さんの一生の宝物になるでしょう。



来月はグレシャム高校から来た留学生について書きますので、お楽しみに！★

お問合せ先  
教育部 生涯学習課 国際交流員  
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6  
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434